



第88号
 発行者 連合会
 行 渥美
 宮私幼PTA (会長)
 編集者 委員
 広報 事務局
 仙台市青葉区国分町三丁目6-12 佐正第二ビル6F
 電話 (022) 263-7040番



幼児教育振興法の 早期制定を求めて！

会長 渥美 巖

子どもを取り巻く社会環境は、少子化、核家族化、情報化等により急激に変化し、地域や人間関係の希薄化、経済性や効率性が重視され、生活や教育格差が拡大傾向にあることが指摘されています。

そのような中で、私達宮私幼PTA連合会は、五月の総会において今年の事業計画(目標)として『①すべての子どもの為に、よい環境をつくる。②よい親、よい教師となる為の研修を深めよう。③保護者の負担軽減の為、更に努力しよう。』との柱を掲げました。

日本の財産は教育で、幼稚園で初めて集団生活を行う幼児期は、人格形成する上で最も重要な時期であります。又、私立幼稚園は、これまでの幼稚園の役割に加え、家庭や地域社会において幅広く行われる教育を支援することも期待されています。

秋の臨時国会では、子どもにとって質の高い幼児教育を受けることを目的とした「幼児教育振興法」(仮称)の審議が行なわれる

予定ですので、幼児教育の無償化も視野に入れた同法の早期制定を全日本私立幼稚園PTA連合会の一員として求めて参りたいと思います。今年の県調査室では、二六一九二人、(率にして八五%)が私立幼稚園に通園しており、私立幼稚園は本県の教育に大きな役割を担っております。私は宮城の将来を考えても人材に投資すべきと考え、③について力を入れていきます。公立幼稚園と私立幼稚園の公費(税金)負担格差が三倍とも言われており、反比例して私立幼稚園の保護者の負担が重くなっている実態を改善する必要があります。私達は、これまで宮私幼連合会と一体となって、知事や県議会議員等に『私立幼稚園に対する県補助金等引き上げ要望』を行って参りましたが、宮城県の私立幼稚園児一人当たり助成金の全国順位は残念ながら下位に甘んじております。今後とも会員皆様と共に強力で要望運動を展開して参りますので、引き続きのご協力をお願い致します。



全日本私立幼稚園PTA連合会 全国大会参加報告



お人形社幼稚園(T)
副会長 横澤 行夫

六月十三日、東京・永田町のホテルオークラで全日本私立幼稚園PTA連合会主催の全国大会が開催されました。各都道府県より約千五百名が「次代(あす)を担う子どものために」幼児教育の振興に向けてのテーマのもとに参集いたしました。

開会あいさつで河村建夫会長(衆議院議員)は「幼児教育振興法を国会に提出したが、衆議院で継続審議となった。次の国会で必ず実現したい。ロバート・フルガムは「人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ」と言っている。乳幼児教育をしっかりと展開させていきたい」と述べた。来賓

祝辞では、安倍首相の代理として高村正彦・自民党副総裁が祝辞を代読、「幼児期の教育は生涯にわたる人格形成に大切なものだ。子どもたちの未来が家庭の経済状況に左右されてはならない。今後幼児教育の無償化を進めていく。」と述べた。馳浩文部科学大臣は「よりよい幼児教育を展開していくことができる体制を整えていくのが幼児教育振興法だ。法案は秋の臨時国会では通して、年末には予算措置ができるようにしていきたい」と述べた。続いて、家庭教育の向上、幼児教育の振興等についての「大会宣言」が採択され、第一部が閉会した。



第二部は講演、「絵本の読み聞かせが子どもの『学ぶ力』を育む」の演題で、明治大学文学部教授の齋藤孝先生の話がありました。先生は、NHK幼児番組「にほんごであそぼ」の制作に携わり十四年になるそうで、本物の日本語を幼児にとの思いで、能・狂言等を題材に取り入れたりしている。頭の中が自由にはばたけるように感性を育てる教育が大切と考えている。体の五感を養うためには絵本が受けいれには良い。絵本の世界を味わうことによって、言葉でイメージする力を育てる。絵本を読み聞かせすることにより、七才までは、親子で落ち着いた時間を過ごす大切な時間です。母語である日本語は、人格的な安定感を育てる大きな力となります。子どもは同じ絵本を何度も読んでとせがんだりします。何度でもその世界を味わうことで、空想力、想像力を幼い心に培うことができます。図書館で何冊か借りて来て、その中から子どもが気に入った本を買って与えよう。反応の良い子を育てるには、親も反応を大きく、反応が薄い人は、リアクションが小さい。世の中が安心できるという場所であると一緒を楽しむことが大切である。

第三部は、クラシックコンサート「トビオ・ヴァイオリン・ピアノ」のトリオの演奏があり、全国大会が終了いたしました。



平成二十八年度宮私幼教育振興大会並びに第四十五回宮私幼PTA研修大会が、去る七月十五日(金)東京エレクトロンホール宮城にて開催されました。

第一部の振興大会は、「次代(あす)を担う子どものために」というスローガンのもと、「子どもたちの教育の原点が家庭にあることを再認識し、家庭が子どもにとって最も安心でき、共に学び合える場になるよう努め、より豊かで充実した幼児教育振興のために公的助成や保護者負担軽減に充当する県費拡充を求め、東日本震災により被災した方々の一日も早い復

興・再生を願い、安心して暮らすことの出来る地域社会づくりの支援に努めていく」という大会宣言がありました。

第二部の研修大会は、「モンゴル民族音楽の調べ」と題して、モンゴル民族音楽アンサンブルユニット「MORITON MON GOL」の皆様が演奏していただきました。

はじめに、「みやぎモンゴルの子ども達を応援する会」代表の大泉義昭さんから、「今年、日本にモンゴルの幼稚園の先生たちを招聘させていただき、大変お世話になりました。こういう演奏会に招待していただき、文化交流の一環としても、ありがたく思っています。今日は馬頭琴とホーミーを堪能して下さい。」という挨拶のあと、「大草原の響き」という曲がスタート。ホーミーは、低音と高音を同時にだす、遊牧民が自然の音や動物の鳴き声を真似して独特の発声をする昔からの伝統のものです、という紹介がありました。

次は、モンゴル民謡でした。モンゴル民謡は基本的に馬頭琴の弾き語りが多いので、遊牧民は草原でのんびりしているときや、星空



を見上げながら歌うことが多いと紹介がありました。楽しい打楽器に合わせ、様々な響きあう音と声が印象的な曲でした。

そして、競馬をイメージした曲「天馬」。子ども達が馬に跨り草原のゴールに向かって走る、そういった風景がイメージされる曲ですという紹介の通り、馬の蹄の音に似たりリズムが心地よい一曲でした。

最後の曲は、山に面したモンゴルの地域、人々、動物、風景、自然の全てを表現したという曲。モンゴルに吹く風を感じるような、伸びやかな音と歌声が印象的でした。

最後に、「本当にモンゴルの風が吹き渡っているようでした。視界に広がるモンゴルの地平線は子ども達の限らない可能性のよう。それぞれの園で、家庭の中で、今日感じたことを活かしてもらえたら幸いです」という閉会の言葉と共に幕が下りました。

- ◎各支部部長 ○各支部会副部長
 (研) 研修部長 (体) 体育部長
 (広) 広報部長
- 顧問 中野 正志 中沢 幸男
 佐藤 和枝 鎌田 俊昭 仲鉢 玲子 渡邊 秀紀 江畑 順子 川崎 忠紀 布間 由理 野田 敬子 小野 淳 紙谷 綾 小野 智香 村上 紀子 佐々木 珠美 目黒 奈美 野田 ひとみ 野田 敬子 佐藤 育恵 布間 由理 川崎 忠紀 江畑 順子 渡邊 秀紀 仲鉢 玲子 鎌田 俊昭 佐藤 和枝 中野 正志 中沢 幸男

平成二十八年度役員名簿

会長 渥美 巖 副会長 中島 源陽 佐々木 幸士 安田 晴奈 横澤 行夫 監事 加藤 静穂 事務局長 小山佳子 事務局長 森 裕樹 常任委員長 大風 未央 常任委員長 渡辺 勝幸 常任委員長 深谷 晃祐 常任委員長 岩山 伸次 菅原 彰 佐々木 拓真 奥田 幹雄 武藤 文子 佐藤 友恵 鈴木 裕三 紙谷 綾 小野 淳 小野 智香 村上 紀子 佐々木 珠美 目黒 奈美 野田 ひとみ 野田 敬子 佐藤 育恵 布間 由理 川崎 忠紀 江畑 順子 渡邊 秀紀 仲鉢 玲子 鎌田 俊昭 佐藤 和枝 中野 正志 中沢 幸男

今後の会活動予定

平成二十八年度

9月9日 バレーボール代表者会
 9月23日 第二回役員会
 10月18日 第四十一回 親善バレーボール大会 (グランディ21)

2月 東北地区私幼PTA 連絡会議
 3月1日 PTAだより 第89号発行
 時期未定 地区研修会 (気仙沼地区・石巻地区)
 時期未定 知事陳情

夏の厳しい暑さも日に日に和らぎ、過ごしやす季節となりました。さて、今回、たくさんの方々のご協力のもと「宮私幼PTAだより八十八号」を発行することができました。本号にありがとうございます。本号を発行するにあたり、様々な方々と出会い、PTA活動をより深く知ることができ、充実した時間を過ごすことができました。次号には各地域のPTA活動なども掲載していきたいと思っております。

今後も幼児教育に関わる全ての方が、未来を担う子ども達の良い成長へ向けて手をとり合っていくことを願い、あとがきとさせていただきます。

(広報部長 我妻)

あ と が き